

再評価結果（平成17年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：鈴木 克宗

事業名：一般国道296号 八千代バイパス	事業区分：一般国道	事業主体：千葉県	
起終点：自：千葉県佐倉市上座 至：千葉県八千代市米本	延長：5.2 km		
事業概要 一般国道296号は、千葉県八日市場市を起点とし、成田市を経て船橋市に至る延長約64kmの幹線道路である。八千代バイパスは、現道の交通渋滞の解消により、京成本線の勝田台駅やユーカリが丘駅へのアクセス性の向上を図り、公共交通を支援することを目標とした延長5.2kmの2車線道路である。			
H2年度事業化	S56年度都市計画決定	H3年度用地着手	
全体事業費	約98億円	事業進捗率	
計画交通量	12,600台/日	供用済延長	
費用対効果分析結果	B/C：(事業全体) 3.8 (残事業) 8.4 総費用：(残事業)/(事業全体) 41/92億円 (事業費：38/88億円 維持管理費：3/3億円)	総便益：(残事業)/(事業全体) 347/347億円 (走行時間短縮便益：317/317億円 走行費用減少便益：25/25億円 交通事故減少便益：5/5億円)	基準年：平成16年
事業の効果等 ・都市の再生（沿道まちづくり〔井野東土地区画整理事業〕との連携あり） ・災害への備え（緊急輸送道路1次路線） 他8項目に該当（定量的評価項目含む）			
関係する地方公共団体等の意見 一般国道296号バイパスは、現道の交通渋滞の解消と地域整備の進展が期待されており、船橋市、八千代市、佐倉市、酒々井町で組織される「国道296号バイパス建設促進協議会」による事業促進の働きかけ（平成16年7月2日協議会総会）が行われている。			
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 平成8年の東葉高速線の開業や、近傍地への大型商業施設の進出などにより、渋滞が激しくなっている。また、平成14年度に、佐倉市で区画整理事業が事業化され、本道路の必要性が高まっている。			
事業の進捗状況、残事業の内容等 整備効果発現の早期発現ため、起点側と終点側を重点区間とし整備を進めているが、用地交渉が難航し、部分供用等には至っていない。			
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 地権者数が多く、権利関係が複雑しているため、用地買収に長時間を要している。今後は、重点区間の用地交渉を、さらに積極的に進め、早期の部分供用を目指す。			
施設の構造や工法の変更等 周辺の土地利用等を考慮し、自転車歩行者道、植樹帯、停車帯などの道路構造の見直し等によるコスト縮減を図る。			
対応方針	事業継続		
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		
事業概要図			

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。